

AI脅威論とプライベートクレジット市場への波及 警戒感をもって進展を注視

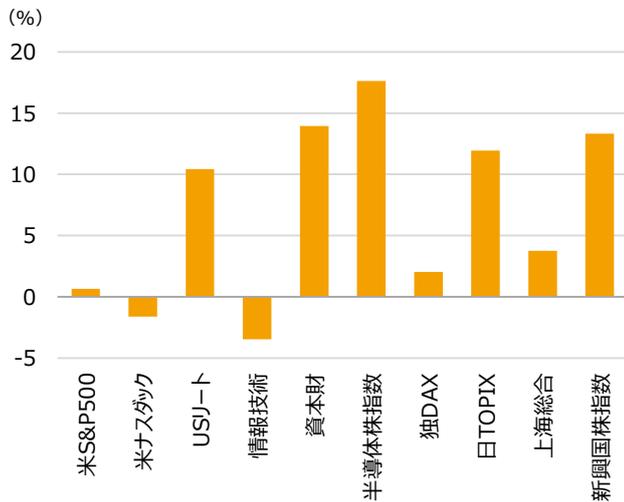
2026年2月25日

米ブルー・アウル・キャピタルが一部ファンドの解約停止を発表

1月に人工知能（AI）大手の米アンソロピックが最新のAIモデル「クロード」を発表したことをきっかけに、足元ではAIが従来の仕事に取って代わるのではないかと「AI脅威論」が台頭しています。AIがプログラムコードを書くことによる「ソフトウェア不要説」に始まり、その懸念は金融などの旧来型産業にも広がっています。一方で、AIに代替されにくいと考えられるREITや新興国株は大幅高となっています。

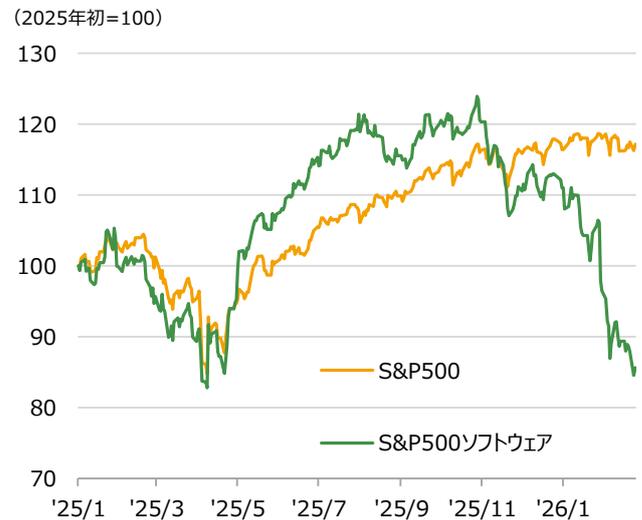
そうした中、2月18日にオルタナティブ資産運用会社の米ブルー・アウル・キャピタルが一部ファンドの解約停止を発表したことで、市場には激震が走りました。プライベートクレジット市場は非公開性が高く実態を把握しにくいものの、主な融資先は「高成長が期待される新興企業」であり、その多くがAI（ソフトウェア）関連企業であるとの見方があります。先んじて1月には、米ブラックロックがプライベートクレジットファンドの一つで純資産価値を19%引き下げると発表しており、懸念はプライベートクレジット市場全体に広がっています。もっとも、投資家が解約に殺到すれば、融資を受けている企業にとっては事実上の「貸しはがし」となり、その結果、自己実現的に破綻へと追い込まれる可能性があります。その意味では、ブルー・アウルが解約を停止し、秩序だった形で投資家に資金を返済しようとする対応は、一定の評価に値します。しかしながら、前述のとおり、プライベートクレジット市場は外部から実態を把握しにくいという特性を持つため、引き続き警戒感をもって注視していく必要があります。

年初来の株式市場のパフォーマンス



※情報技術と資本財は米S&P500種、半導体株指数はフィラデルフィア半導体株指数、新興国株指数はMSCI新興国株指数（米ドルベース）
※2026年2月24日まで（出所）ブルームバーグ

S&P500と同ソフトウェアセクター



※直近値は2026年2月24日

（出所）ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。